

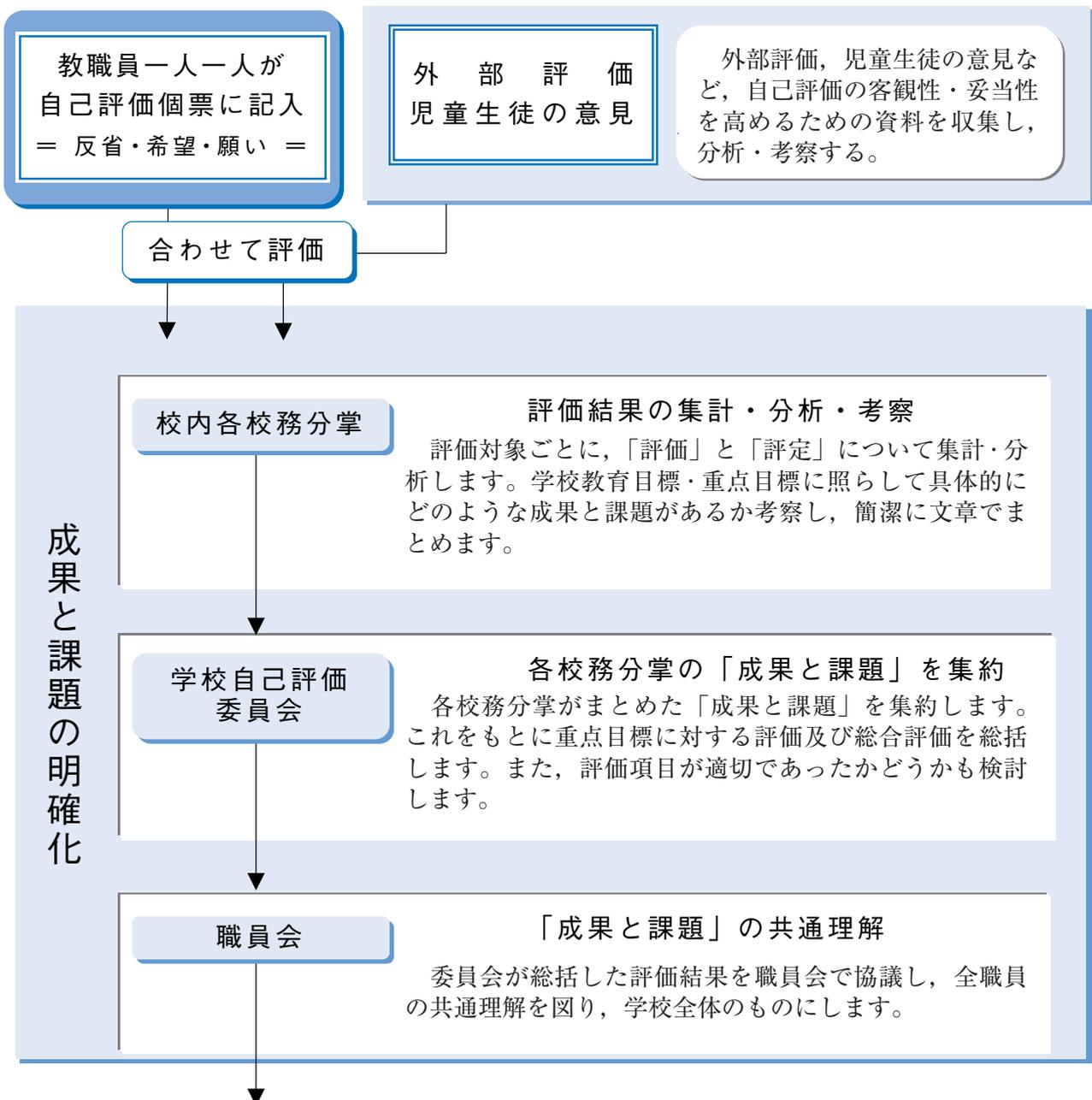
6 評価の総括

全教職員の共通理解と改善・向上への検討が大切

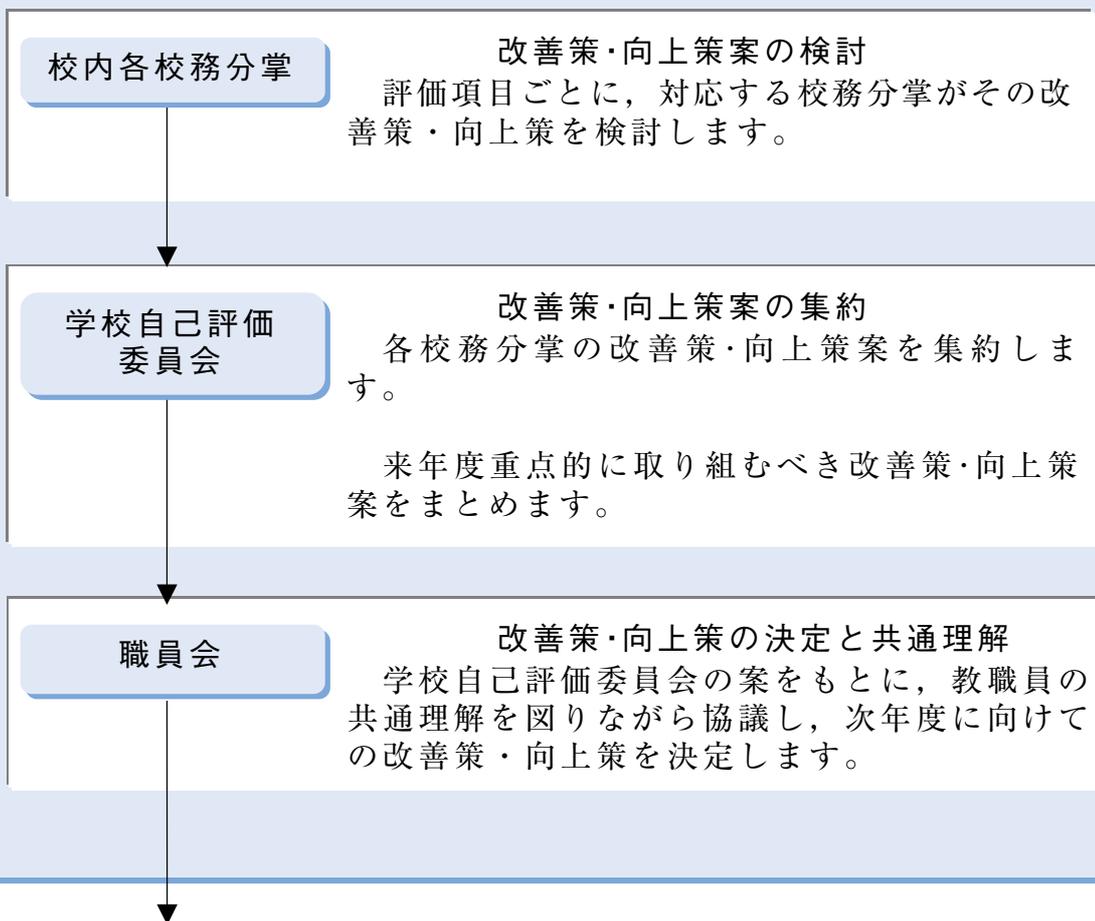
評価結果を集計・分析し、考察することは、学校目標や重点目標に基づいた教育活動の成果と課題を明らかにし、次年度の教育課程を編成するために重要な活動です。

「達成された」と判断した項目については、その要因を明確にして、次年度の計画や実践に生かします。また、「改善すべきである」と判断した項目については、その背景・要因を明らかにして、改善策・向上策を考えます。

ここでは、教職員一人一人が書いた自己評価の個票（資料編の各個票例参照）をもとに、評価表（P14・15の例参照）を作成し、評価を総括する手順を示します。



改善策・向上策の策定



評価結果，改善策・向上策の公表・説明

⇒ P 16

課題の背景・要因を明らかにする四つの視点

設定した目標が達成されなかったときは、評価を集計・分析し、その背景・要因がどこにあるかを明確にすることで、評価を改善に生かすことができます。

要因は…

- 1 重点活動（評価項目）や重点活動のねらい（評価の観点）にあるのか。
- 2 重点目標にあるのか。
- 3 学校教育目標にあるのか。
- 4 活動を実践した教職員等にあるのか。